

テテキスト 創世記 41章1～44節

〈背景と文脈〉

神は、ポティファルに仕えるヨセフと共におられ、彼の働きを祝福された。しかしヨセフは、ポティファルの妻の誘惑を退けたことから、新しい試練にあう。妻の偽りの言葉を信じたポティファルは、ヨセフを捕えて、王の囚人のための監獄に彼を入れた。しかし主はヨセフと共におられ、恵みを与えられたので、ヨセフは監守長の信任を得た。

この後、ファラオの給仕役の長と料理役の長が王に過ちを犯し、ヨセフのいた獄に投獄された。二人はそれぞれ夢を見たが、その意味を理解できていなかった。ヨセフは彼らの夢を解き明かし、それが現実になった。彼は、職に復帰することになった給仕役の長に、無実の罪で投獄されていることをファラオに告げ、解放されるよう取り計らってほしい、と依頼した。しかし、給仕役の長はそのヨセフの願いを忘れてしまった。そのため、その後2年、彼はなお囚人として獄で生活する。しかし、これが神の摂理だったことが、今日の箇所から明らかになる。

〈ファラオの夢を解くヨセフ (41:1～36)〉

ヨセフが給仕役の長の夢を解いたその2年後、ファラオはふたつの夢を見た。やせ細った七頭の雌牛が、よく肥えた七頭の雌牛を食い尽した。また、実の入っていない干からびた七つの穂が、太って実の入った七つの穂をのみ込んでしまった。これらの夢を見たファラオはひどく胸が騒ぎ、エジプト中の魔術師と賢者をすべて呼び集め、解き明かしを求めたが、誰にもそれができなかった。

そのとき、給仕役の長は、ヨセフがかつて獄中で、彼と料理役の長の夢を解き、その通りになったことを思い出し、ファラオに彼のことを告げた。ヨセフは獄から連れ出され、ファラオの前に出た。神の時が来た。

王はふたつの夢をヨセフに話した。ヨセフは、王が見た夢は、神がこれからなさろうとしておら

れることを、ファラオに告げるものであり、ふたつの夢の意味は同じであること、また神がそれを間もなく起こそうと決定されていることを告げた。それは7年の豊作のあとに7年の飢饉の年が来ることの予言であり、ヨセフはその対策として何をなすべきかファラオに進言した。

〈宰相になったヨセフ (41:37～44)〉

ファラオはヨセフに神の霊が宿っていることを認め、彼をエジプト国民のもっとも上に立つ宰相として任命した。ファラオの言葉、「お前の許しなしには、このエジプト全国で、だれも、手足を上げてはならない」(44)は、ヨセフが王の次の位の支配者であり、すべての国民を治める者とされたことを示唆する。囚人の身分だったヨセフは、神の時が来た時、神によって引き上げられた。そのことが、父ヤコブの一族を救うために、神が用意された道であったことが、42章以下の記事からわかる。

ヨセフの人生の中で、神は彼に伴い、恵みを与えられた。神はポティファルの奴隷となったヨセフと共におられ、その祝福は彼のゆえにポティファルの家、財産にも及んだ(39:2～5)。また神は、無実の罪によって投獄されたヨセフと共におられ、恵みを与え、監守長の目にかなうように導かれた(39:21)。

そのように、神はヨセフと共におられ、彼の人生を導かれた。ヨセフの夢の解き明かしを聞いたファラオは、「このように神の霊が宿っている人はほかにあるだろうか」と感嘆している(41:38)。ヨセフは自分の境遇を恨むことなく、神を信じ、そのような環境の中で彼を導いておられる神に自分自身をゆだねた。神はヨセフと共におられ、祝福され、またその祝福は、周囲の人々にも及んだのである。神は彼を神の救済史のなかで用いられたばかりでなく、異教の地でご自身の証人としても用いられた。(後藤公子)

テキスト 創世記 41章1～44節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問14

〔単元のねらい〕

神様がどんな時もヨセフと共にいられた、このインマヌエルから、神様の豊かな祝福がヨセフ自身はもちろん、周りの未信者の人々にも及ぼされていた事実を教えたい。子どもたちが、この事実を知ること、神様の子どもとされている自分の存在意義をいよいよおぼえて、日々、勇気をもって歩めればと願う。

「神さまはどんな時も一緒」

愛する子どもたち、おはようございます。

毎日暑い日が続いていますが、森や林では、ツクツクボウシが鳴くようになりました。先生は、みんなみたいに小学生の頃、ツクツクボウシが鳴くようになると、ツクツクボウシが「夏休みもうすぐ終わりだから、宿題頑張って!」と言っているように聞こえて、ちょっとあせったものです。みんなは、どうですか。

さあ、この夏休みは、元気に過ごせましたか。もしかしたら、クーラーかけっぱなしで寝て、寝冷えしちゃったことがあったかも知れませんか。そして、何日間か、高い熱が出て、苦しい思いをしたかも知れませんか。そんな病気の時、みんなは、どう思うでしょうか。確かにクーラーかけっぱなしが原因で、体をこわしてしまったわけだけれど、神さまが見捨てられたので、病気になっちゃったのかな? それで、苦しい思いをしているのかな? と思ったことないでしょうか。神さまが、どこかに行ってしまったので、病気になったのでしょうか。きょうは、たとえば、病気で苦しい時とか、神さまは、どこにおられるのかをヨセフさんのお話から考えてみましょう。

ヨセフさん、お兄さんたちに嫌われて、遠い遠いエジプトの国へと奴隷として売られて連れて行かれました。そして、エジプトの王様にお仕える侍従長、ポティファルさんの奴隷として働くことになりました。ヨセフさんは、もしかしたら、お兄さんたちに穴に突き落とされた時から、「神

さま、どうして、一緒にいてくださるはずなのに、わたしを守ってくださらなかったのですか!」と、神さまに何度も何度も訴えていたかも知れませんか。しかし、神さまは、ヨセフさんから、ひとときも離れられることなく、いつも一緒だったのです。創世記の第39章には、そのことが繰り返し書いてあります。たとえば、「主がヨセフと共にいられたので、彼はうまく事を運んだ。彼はエジプト人の主人の家にいた。主が共におられ、主が彼のすることをすべてうまく計らわれるのを見た主人は、ヨセフに目をかけて身近に仕えさせ、家の管理をゆだね、財産をすべて彼の手に任せた」(39:2～4)。「しかし、主がヨセフと共におられ、恵みを施し、監守長の目にかなうように導かれたので、監守長は監獄にいる囚人を皆、ヨセフの手にゆだね、獄中の人のすることはすべてヨセフが取りしめるようになった。監守長は、ヨセフの手にゆだねたことには、一切目を配らなくてもよかった。主がヨセフと共におられ、ヨセフがすることを主がうまく計らわれたからである」(39:21～23)。神さまがいつもヨセフさんと一緒だったので、ヨセフさんだけでなく、ポティファルさんの家も豊かに祝福されたのでした。それで、まず、ヨセフさんは、ポティファルさんの家のことを何でも任せられました。ところで、ヨセフさんは、とてもイケメンだったようです。ある日、ポティファルさんの奥さんがヨセフさんを誘惑しました。しかし、神さまが一緒でしたから、それを退

けることができましたが、ポティファルさんに誤解されてしまい、牢屋に入れられてしまったのです。それでも、神さまがヨセフさんと一緒だったので、牢屋でも、牢屋を見張るお役人から、牢屋のことをすべて任せられました。その次の第40章には、神さまがヨセフさんといつも一緒だったので、ヨセフさんが、人の見た夢の意味がわかるようになったことが書いてあります。それで、王様のご機嫌を損ねるようなことをしてかして、同じ牢屋に入れられた給仕長と料理長の夢の意味を教えます。それぞれの夢は、三日後に給仕長は許されて元のお仕事に戻るけれども、料理長は許されずに死刑にされるといった意味でした。実際、三日後にその通りになったのですが、ヨセフさんは、給仕長に、その通りになって幸せになった時には、私のことを思い出して、王様に牢屋から出すように取り計らってくださいとお願いしました。ところが、給仕長は、つい、ヨセフさんのことを忘れてしまったのです。

それから、二年が経った様子です。王様が奇妙な夢を見ました。突然、川から、太った七頭の雌牛が上がって来て、岸辺で草を食べ始めるのです。そうしたら、やせた七頭の雌牛が上がって来て、さっきの太った七頭の雌牛を食べてしまいます。また、こんな奇妙な夢も見ました。一本の茎から豊かに実を結んだ七本の穂が生えて来たのです。そうしたら、実のない、ひからびた七本の穂が生えて来て、さっきの豊かに実を結んだ七本の穂を飲み込んでしまったのです。王様は、国中の魔術師なんかに、夢の意味を問いましたが、誰ひとり分かりません。すると、給仕長が、ヨセフさんのことを思い出して、王様に、どんな夢でもその意味がわかるヘブライ人が牢屋にいることを告げま

した。早速、王様は、ヨセフさんを牢屋から出して、連れて来させ、夢の意味を問います。すると、ヨセフさん、一緒にいてくださる神さまが教えてくださったこととして、その夢の意味を教えます。その奇妙な夢は、エジプトの国中に七年間もたらされる豊作と、それに続く七年間、国中を襲う飢饉のことだったのです。そして、ヨセフさんは、王様に七年間の飢饉に備えるために、食べ物で七年分蓄えるようにアドバイスもしたのです。

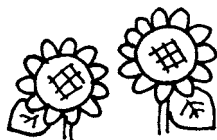
王様は、ヨセフさんのことがたいそう気に入って、ヨセフさんをエジプトの国のナンバーツー、総理大臣にしたのでした。最初、野原の穴に、お兄さんたちによって突き落とされた時には、真っ暗な中で、これからどうなるのだろう？神さまはどこに行ってしまったのだろう？と思ったに違いありません。そして、ヨセフさんは奴隷としてエジプトに連れて行かれましたが、神さまは決してヨセフさんから離れることなく、いつも一緒におられました。そして、たとえ牢屋に入れられても一緒におられて、ついにヨセフさんをエジプトの国の総理大臣になるようにお導きくださったのです。

このように神さまは、たとえば病気で苦しい時も一緒にいてくださいます。悲しい時、つらい時も、神さまは一緒です。苦しい時、悲しい時、つらい時ばかりではありません。楽しい時も、いやいや普通の時も、神さまは一緒にいて私たちを祝福してくださいます。私たちだけでなく、私たちの周りの人たち、お友だちも祝福してくださいます。今週も、いつも、神さまは一緒。どんな時も一緒にいてくださる神さまに信頼し、感謝して生活しましょう。

(長谷川潤)

[今週の暗唱聖句] 創世記 39章2節

主がヨセフと共におられたので、彼はうまく事を運んだ。



〈ねらい〉

困難にあっても、自分の力ではなく神さまが道を開いて下さることを信じられるように。

〈暗唱聖句〉

「わたしではありません。神さまが王さまの幸いついて告げられるのです」。

〈展開例〉

- ①エジプトに売られていったヨセフは、なんと無実の罪で牢屋に入れられました。神さまはもうヨセフを見捨てられたのでしょうか。そうではありません。神さまは牢屋の中でもヨセフさんとともにおられ、そこから素晴らしい道を用意してくださっているのです。
- ②ある日、エジプトの王さまの給仕役と料理役が、王さまに怒られて牢屋に入れられました。二人はこの後どうになってしまうのか心配でたまりません。そして二人は同じ夜に夢を見ました。給仕役の夢はこうです。
- ③一本のぶどうの木に三本のつるがあり、それがすくすく大きくなって、ぶどうが取れました。私はそれを王さまの杯に注ぎました。ヨセフはそれを聞いて解き明かしをしました。「三日たてば、あなたは元の仕事に戻ることができます。そのときは、どうか私のことも思い出してください」。
- ④三日後、ヨセフの解き明かしたとおり給仕役は解放されました。でもヨセフのことは、すっかり忘れてしまいました。
- ⑤それから、二年たちました。今度は王さまが夢を見ました。「誰か、私の夢を解き明かしてくれる者はいないだろうか。エジプト中の魔術師と賢者を集めて聞いたが、誰にも分からなかった。ああ、こまった。心がさわぐ。きっと何か大切な知らせに違いないのに」。それを聞いた、あの給仕役はヨセフのことを思い出して、「きっと、ヨセフなら分かります」と王さまに言いま

した。

- ⑥早速、ヨセフは王さまの前に出されました。「お前は夢を解き明かすことができるそうだな」。王さまが尋ねますと、ヨセフは「私ではありません。神さまが王さまの幸せのために告げられるのです」。王さまは安心して夢のことを話し始めました。
- ⑦「ナイル川のほとりに七頭のよく太った牛が上がってきた後、七頭の醜いやせた牛が上がってきて、最初の太った七頭を食べてしまった。また、一本の茎から七つのよく実の入った穂が出てきた後、やせて干からびた七つの穂が出てきて、よく実った七つの穂を飲み込んでしまった。この意味を告げるものが誰もいないのだ。おまえには分かるか？」ヨセフは答えて言いました。「七頭の太った牛と七つのよく実った穂は、エジプトの国に7年間の大豊作があることを表し、七頭のやせた牛と七つの干からびた穂は、その後に起こる大飢饉を表しています。だから最初の七年間の豊作の時に食べ物を蓄えておけば、後の七年間の飢饉の時も、エジプトでは誰も困ることはありません」。
- ⑧王さまは驚きながら、「ヨセフほど神さまの霊が宿っている人は他にいない。こんなに神さまに守られている者がエジプトのために働いてくれば、この国は神さまに守られることになるであろう」と言って、ヨセフを総理大臣に任命しました。そしてヨセフによって大飢饉のときも国中の人が守られました。でもヨセフはこう言うでしょう。「私ではなく、神さまがすべての人の幸せのために告げられたのです」。

〈お祈り〉

苦しい時も、いつも一緒にいて守ってくださる神さま。すべての人が幸せのために告げられた聖書の言葉を私にもっと教えてください。そしてすべての人が幸せになりますように、お守りください。アーメン。

〈ねらい〉

どんな時も共におられる神様を覚え、自分だけでなく周りのためにも祈ることができる子どもになりたい。

〈はじめに〉

いよいよ夏休みも数日で終わってしまいます。すでに学校が始まっている子どもたちもいるかもしれません。子どもたちの様子はいかがでしょうか。宿題に追われていたり、緊張や不安があったりするかもしれません。子どもたちの心のうちを聞く時間ももちましよう。そして、全てを神様に委ねて安心してこの一週間をすごすことができるよう共に祈りましよう。

〈御言葉に聴きましょう〉

- ①誰が夢を見ましたか。
- ②最初に川から上がってきた雌牛は、太っていましたか。やせていましたか。
- ③次に来た雌牛はどうでしたか。
- ④醜い、やせた雌牛はどうなりましたか。

〈展開例〉

ヨセフさんのお話が続きます。お父さんに愛されていたのに、兄弟からは嫌われていたヨセフさんは、悲しい思いをしましたね。お兄さんたちに見捨てられ、遠い国に奴隷として連れて行かれました。家族から離れてしまって一人ぼっちになってしまいました。でもそんなヨセフさんのそばから離れないでずっと一緒にいてくださった方、神様がおられました。どんな時も一緒にいてくださいました。この神様に応えて、ヨセフさんも一生

懸命自分に当てられたお仕事を朝から晩まで心を込めてしました。何年も何年も働きました。だんだん周りの人から、このヨセフさんは他の人と違うぞ、よく仕事ができるぞ、信頼する人が増えてきました。

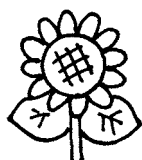
ある日、この国の王様が夢を見て、その夢の意味を教えるという大きな仕事がヨセフさんに頼まれました。ヨセフさんはいつものように神様から力をいただいて、王様の見た夢の意味を王様にお伝えすることができました、そのお陰で、このエジプトの国の大勢の人の生活、命を守ることができました。王様はヨセフさんを信頼して、この国の二番目に偉い人、総理大臣という大事なお仕事をヨセフさんに与えました。

この国に来たときは奴隷として売られて来て、誰一人知った人もなくて、しかも兄弟から嫌われたという心に大きな傷をもっていたヨセフさんも、今では総理大臣です。誰がこんな人になると思っていたでしょう。もちろんお兄さんたちだって想像もしていなかったこと、誰も知らないことが、ヨセフさんに起こっていたのです。でも、このことも神様の大きな計画の中にあったのです。

私たちも悲しい時、いやだと思う時、なぜ？と思う時があります。でもどんなときでもヨセフさんのそばに神様がいてくださった、その同じ神様が私たちのそばに今もいてくださいます。勇気が出てきますね。私たちの回りの人たちはどうでしょう。私だけでなく、お友だちにも、家族に人にも、この神様が共にいてくださる、この祝福をお伝えしましょう。

〈お祈り〉

神様、どんなときにも共にいてくださりありがとうございます。どうぞいます。



〈ねらい①〉

前回と同じように、思いを超えた、神の救いの物語のスケールの大きさに、共に驚く。

〈展開例①〉

聖書の中でも飛びぬけて面白いテキストですから、聖書物語を丁寧に確認するだけで十分に意義深いと思います。礼拝における説教者が、時間の都合で十分に語れないような場合に、分級でフォローなさればいいと思います。その際は、説教展開例を参考になさってください。紙芝居や絵本も充実していると思います。

〈ねらい②〉

主を信じる者は、決して主から見捨てられることはないという確信を伝える。

〈展開例②〉

「強く、また雄々しくあれ。恐れてはならない。彼らのゆえにうろたえてはならない。あなたの神、主は、あなたと共に歩まれる。あなたを見放すことも、見捨てられることもない。」（申命記31:6）

説教展開例にあるように、ヨセフはエジプトで様々な苦悩を味わいましたが、いつも神様が共にいてくださったので、ことがうまく運びました。でも、そんなヨセフさんであっても、もう自分は神様から見捨てられてしまったと、悲しみに沈んでしまった時はあったでしょう。お兄さんたちへの恨みと怒りで、心が真っ暗になった時もあったかもしれません。やつらのせいで、おれはこんな惨めな暮らしをしなければいけない……と、考えてもおかしくありません。でも考えてみれば、元々はヨセフも悪かったのですよね。お父さんにひい

きされているのをいいことに、お兄さんたちに対しても高慢にふるまって、怒らせているのにも気付かない。無神経なジコチュー人間でした。

どちらも罪人でした。罪人同士が憎しみ合って、傷つけあった末に、ヨセフの惨めな牢獄生活があるのです。それは罪の牢獄と言ってもいいですね。罪に支配された人間が、神様の御心からまったく遠く離れた思いと行いによって傷を深め、罪の牢獄に捕らえられて行き詰っているのです。神様から「もうお前のことなんか知らない」って言われてもおかしくない、むしろ言われるのが当然です。それはヨセフだけじゃない。私たちはみんな、神様から見捨てられて当然の者たちです。行き詰った罪人です。

でも神様は、そんなヨセフのことを、私たちのことを、どこまでも見捨てないで、共にいてくださる方なのだと、今日の御言葉は教えてくれます。イエス様を信じるなら、私たちは神様から絶対に見捨てられることはありません。イエス様が、私たちの代わりに見捨てられてくださったのですから、もう私たちが見捨てられることはありません。皆さんにも、ヨセフのように行き詰る時があるでしょう。考えることもできない悲劇が襲う時もあります。でも神様は、絶対にあなたを見捨ててはいません。その苦しみにも必ず意味があります。

〈祈り〉

ヨセフとどこまでも共にいてくださった神様、どうか私たちといつまでも共にいてください。思いもよらない悲しみに襲われる時にも、考えたこともなかった苦しみを味わう時にも、私たちの目を開いてくださって、あなたが共にいてくださることを教えてください。どんな時も、あなたを信じ、強く雄々しくあることができますように。



〈ねらい〉

常に共にいてくださる主を覚える。

〈展開例〉

- ①「神様が私たちと共におられる」小さい頃から教会に來ている人には聞きなれた言葉だと思ふ。教会は、世界を創り、世界と歴史を導く神様が皆と一緒にいる、という世間の人からすれば信じられないことを大真面目で告白する。

Q. みんなは、どうだろう？ 自分の生活に神様は確かに一緒にいてくださる、こんな風に感じたことがあるだろうか？ 反対に、そんなすごい方が一緒にいるにしては、自分の毎日は余りにしょぼい。本当に神様は私と一緒にいるのだろうか？ こんな疑問を感じたことはないか？

- ②今日、聞いたエジプトで奴隷として働くヨセフのサクセスストーリーはただの、成り上がりの深い話ではない。「主と共におられた」のでヨセフは、はた目にはつらそうな状況の中でも道が切り開かれていった。ナレーションはそう語るが、ヨセフの胸中がどうであったかはわからない。聖書は、ヨセフがどう感じたかではなく、「主はヨセフと共にいた」という事実をただ述べる。しかし、神様が共にいられるということは、まったく実感のないものであるわけではない。ヨセフは与えられた知恵や夢解きという才能を用いて一つひとつの状況を一生懸命に生きていく中で、神様が共におられることを確かに示された。どんな困難な中でも常にポジティブでいたヨセフの信仰は、そうした歩みの中で培われていった。信じたから助けられたのではない。助けてくださったから信じることができたのである。苦しい状況であったがヨセフは確かに神様の力によって守られていった。未来はヨセフの前に閉じていない。希望は常に彼の

前にあった。

- ③「神様が自分と一緒にいてくださる」この信仰は神様に守られる中で養われる。守られる道のりを振り返るときに初めて気がつくことも多いだろう。しかし、神様に助けられ祝福され続ける日々の積み重ねが、この素朴だが力強い信仰を育む。そして、まったくの真顔で「ああ、神様は私の毎日に確かに共にいてくださる」と思える時、どんな困難の中にあっても決して絶望しない、希望に満ちた生き様を君の人生につくりあげる。

- ④ヨセフほどの劇的な状況ではないにしろ、君の人生で何かがうまく運ぶとき、そこには神様の導きが確実にある。神様と共に生きることで受ける祝福は幅が広い。命の危機から救われるような大きなことかもしれないし、毎日の中の些細なことかもしれない。それが大きなことであれ小さなことであれ、よく目を凝らせば神様の恵みは君の毎日に溢れかえっているはず。そうやって、日々の恵みを見つめ続けることによって、目を凝らしても神様の恵みがわからないような苦しみの中で、「大丈夫。神様は絶対に一緒にいてくださる」こう信じる信仰が皆に与えられることを心から願う。将来に役立つことを色々と身につけるこの時期に、どんな人生を歩むにせよ、「神様が私と一緒にいてくださる」この信仰をほど重要なことはない。苦難にあっても絶望しない「主と共におられる」確信が与えられるように願い求めて欲しい。

〈祈り〉

私たちと共にいてくださる神様。感謝します。どんな時にもそのことを信じられるようにしてください。アーメン。